

未来開拓學術研究推進事業

- Research for the Future Program -
(平成9年度開始分)

「最終評価」報告書概要

日本學術振興会

目 次

	ページ
「最終評価」報告書の公表にあたって	1
【理工領域】 (1 1 研究推進委員会、2 6 研究プロジェクト)	5
(1) 次世代人工物質・材料の探査的研究	7
(2) 原子スケール表面・界面ダイナミクス	8
(3) 高度プロセス	9
(4) 次世代プロセス技術	10
(5) 知能情報・高度情報処理	11
(6) マルチメディア高度情報通信システム	12
(7) シンセシスの科学	13
(8) 革新的未来型エネルギー生成・変換の方式、材料、システム化	14
(9) エネルギー利用の高効率化と環境影響低減化	15
(10) 計算科学	16
(11) 光科学	17
【生命科学領域】 (8 研究推進委員会、3 3 研究プロジェクト)	19
(1) 高次脳機能	21
(2) 細胞シグナリング	22
(3) 生命体の形成機構(生殖、発生など)	23
(4) 生体分子の構造と機能調節(構造生物学と機能分子)	24
(5) 植物の環境応答機構とバイオテクノロジー	25
(6) 感染と生体防御	26
(7) 成人病 - 遺伝素因と環境因子の解明	27
(8) 食資源動物の科学	28
【複合領域】 (6 研究推進委員会、2 1 研究プロジェクト)	29
(1) 生命情報	31
(2) 再生医工学	32
(3) 生命科学と化学的手法の融合による新有用物質生産	33
(4) 生体の計測と制御	34
(5) 環境負荷の影響評価と軽減	35
(6) アジア地域の環境保全	36
【総合研究連絡会議関係】 (1 0 研究プロジェクト)	37

未来開拓学術研究推進事業（平成9年度開始分）
「最終評価」報告書の公表にあたって

日本学術振興会
未来開拓学術研究推進事業委員会

事業目的と最終評価の実施について

- (1) 本事業は、21世紀を展望し、地球規模の問題の解決、経済・社会の発展、豊かな国民生活の実現等を目指し、我が国の未来の開拓につながる創造性豊かな学術研究を大学主導により重点的に推進することを目的として、平成8年度に発足した。
- (2) 各研究プロジェクトの研究期間は原則5年間、研究経費は政府出資金を活用し、日本学術振興会から1研究プロジェクトにつき平均約1億円を配分した。なお、平成14年度からは文部科学省から未来開拓学術研究費補助金として交付されている。
- (3) 本事業の実施に当たっては、事業委員会及び領域毎の部会を設け、そこで審議選定された推進研究分野毎に研究推進委員会を設置し、同委員会が研究推進計画及び研究プロジェクトを企画立案するという、アカデミア選抜（指導的立場にある研究者によるいわゆるトップダウン方式）を基本方式として採用した。また、日本学術振興会の産学協力研究委員会及び研究開発専門委員会からも、それぞれの研究の蓄積の上に、本事業の趣旨に適合する研究プロジェクトを企画提案してもらい、総合研究連絡会議による選抜のうえ事業委員会が採用し、併せて実施した。

研究推進委員会等の組織は、本事業に課された任務を的確に遂行し、社会からの期待に十分応えるべく、研究プロジェクトに対する定期的な評価活動を行い、それに基づき必要な助言や支援を行ってきた。

本事業は、原則5年間にわたる比較的大型の研究助成事業であることから、本事業に対する国費投入の説明責任を果たすとともに広く国民の理解と支持を得ることが重要であること、並びに財源が出資金を活用していることに鑑み、研究活動は知的資産の形成を強く意識して行うことが期待されている。また、研究活動の透明性を向上させる観点から客観的な評価を保証するため、研究推進委員会等による評価活動とは別に、外部の専門家による研究評価委員会を組織し、研究プロジェクト及び研究推進委員会等の活動状況を含む事業全体について、研究開始から2年経過後に「中間評価」を、研究期間終了後に「最終評価」を行っている。

- (4) この度、研究評価委員会は、平成9年度に開始し5年間の研究期間が終了した研究プロジェクト及びこれらの研究プロジェクトを企画立案した研究推進委員会等の委員会活動を評価対象とし、研究期間終了時点における研究プロジェクトの研究成果・研究実績及び研究の達成度、並びに関係研究推進委員会等に係る研究推進計画等の達成度を中心とした最終評価を実施し、「最終評価」報告書を取りまとめた。
- (5) このことを踏まえ、事業委員会は、「最終評価」報告書について審議し、本報告書に関する所感を以下のように取りまとめた。

「最終評価」報告書に関する所感

- (1) 研究評価委員会は、研究プロジェクト研究開始2年経過後に書面評価及びヒアリング、場合によっては現地調査を精力的に実施するとともに、必要と認める場合は被評価者との意見交換を行うなど、多角的な観点から中間評価を実施した。その評価結果に基づき、事業委員会は、高く評価された研究プロジェクトについては研究経費の充実を含め一層の推進を図り、問題があると指摘された事項については必要な見直しや改善を図る等の柔軟な運営を行ってきた。

また、最終評価の実施においては、当該研究プロジェクト等の中間評価を担当した研究者に評価協力を依頼するなど、評価者と被評価者の信頼関係の醸成及び評価の考え方の継承に努めるとともに評価の一貫性を確保する配慮がなされている。このようなことから、本事業の趣旨・目的や運営方法を十分理解した上で事業委員会が描いた評価の趣旨を理解し、公正かつ厳正な評価を実施したと認識する。さらに、研究推進委員会等の活動及び研究プロジェクトの研究成果等を中心として事業全体の在り方も含めて幅広く目を向けており、評価結果は適切なものであると考える。

評価結果は、当初の研究目的の達成度及び研究成果等が予想以上の結果であるといった高い評価を得ているものもあるが、他方、研究分野の推進方法、研究プロジェクトの選定方法、及び研究成果等についていくつかの問題点が指摘され、厳しい評価を受けたものも含まれている。しかしながら、本報告書における評価結果は、あくまで研究プロジェクト終了時における評価結果であり、現時点で厳しい評価を受けている研究にあっても、今後の研究の発展や研究者の研鑽によっては予想外の展開に結びつくことも期待される。したがって、10年後もしくは20年後に再びこの事業の意味を問い直してみることも必要であろう。また、本事業はアカデミア選抜を採用していることから、事業委員会としても、研究プロジェクトのみならず事業委員会あるいは事業自体が評価の対象になる要素を含んでいることを認識し、最終

的には本事業は国民によって評価されるものであることを自覚しているところである。

- (2) 事業委員会は、我が国の未来の開拓につながる独創的な研究の発展を目指すための試行錯誤を繰り返し、その都度改善を図ると同時に、本事業の趣旨や実施方法について広く各界の理解を得るよう努めてきたところである。同様に、研究評価の実施方法及び公表方法等についても様々な議論を行ってきた。そのような議論を踏まえた結果、本事業において実施してきた研究評価の在り方は、我が国において今後実施される比較的大型の研究プロジェクトに対する一つの研究評価システムとしてその型を提示したものとする。
- (3) 加えて、研究評価は、学術研究活動の活性化を促し、学術の発展に重要な役割を果たすものであることに鑑み、今回実施した評価方法等について、関係各位から忌憚のない御意見等いただき更なる改善を図ることが、今後の我が国の歴史、文化、風土に適した研究評価システムの構築につながるであろうことを期して、本報告書を公表するものである。
- (4) 終わりに、未来開拓学術研究推進事業は、平成13年度以降新たな研究プロジェクトの採択を行わないこととされているところであるが、本報告書が今後の我が国における学術研究の発展の一助となることを期待したい。

【理工領域】

1 . 次世代人工物質・材料の探査的研究

(1) 評価対象研究推進委員会 : 「次世代人工物質・材料の探査的研究」研究推進委員会

(委員長) 増本 健 (財)電気磁気材料研究所長
池上 徹彦 会津大学長 / NTTエグゼクティブアドバイザー
伊澤 達夫 NTTエレクトロニクス(株)代表取締役社長
神谷 武志 大学評価・学位授与機構審査研究部教授
小林 俊一 理化学研究所理事長
多田 邦雄 横浜国立大学大学院工学研究院教授
南雲 道彦 早稲田大学理工学部教授
平井 敏雄 (財)ファインセラミックスセンター試験研究所長

3名の評価協力者による評価結果 :

研究推進計画の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を得ている。 0人
研究推進計画の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を得ている。 3人
研究推進計画の進展は必ずしも順調ではない。 0人

(2) 評価対象研究プロジェクト

番号	研究プロジェクト名	プロジェクトリーダー
1	広いスペクトルに対応する光デバイス新素材の探索	岸野 克巳 (上智大学理工学部教授)
2	光IC用の新しい機能発現材料・構造の開拓	水本 哲弥 (東京工業大学大学院理工学研究科助教授)
3	有機導体における伝導機構の制御と新機能性材料の設計開発	高橋 利宏 (学習院大学理学部教授)
4	ナノ構造における量子光非線形効果とその応用	川辺 光央 (筑波大学物理工学系教授)

3名の評価協力者による評価結果 :

研究の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を挙げている。 のべ1人
研究の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を挙げている。 のべ10人
研究の進展は必ずしも順調ではない。 のべ1人

2. 原子スケール表面・界面ダイナミクス

(1) 評価対象研究推進委員会：「原子スケール表面・界面ダイナミクス」研究推進委員会

(委員長) 西永 頌 豊橋技術科学大学長
今石 宣之 九州大学機能物質科学研究所教授
潮田 資勝 東北大学電気通信研究所教授
押山 淳 筑波大学物理学系教授
鯉沼 秀臣 東京工業大学応用セラミックス研究所長
高橋 清 帝京科学大学理工学部教授

3名の評価協力者による評価結果：

研究推進計画の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を得ている。 1人
研究推進計画の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を得ている。 1人
研究推進計画の進展は必ずしも順調ではない。 1人

(2) 評価対象研究プロジェクト

番号	研究プロジェクト名	プロジェクトリーダー
1	成長表面・界面の動的挙動と原子スケールシミュレーション	入澤 寿美 (学習院大学計算機センター教授)
2	非平衡表面層の原子スケールダイナミクスと新物質の創生	大野 英男 (東北大学電気通信研究所教授)

3名の評価協力者による評価結果：

研究の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を挙げている。 のべ2人
研究の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を挙げている。 のべ2人
研究の進展は必ずしも順調ではない。 のべ2人

3. 高度プロセス

(1) 評価対象研究推進委員会：「高度プロセス」研究推進委員会

(委員長) 野依 良治 名古屋大学物質科学国際研究センター長
国武 豊喜 北九州市立大学副学長
櫻井 英樹 (財)みやぎ産業振興機構理事長
藤田 廣志 大阪大学名誉教授
村橋 俊一 岡山理科大学工学部客員教授

3名の評価協力者による評価結果：

研究推進計画の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を得ている。 3人
研究推進計画の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を得ている。 0人
研究推進計画の進展は必ずしも順調ではない。 0人

(2) 評価対象研究プロジェクト

番号	研究プロジェクト名	プロジェクトリーダー
1	新炭素物質創製プロセス	篠原 久典 (名古屋大学大学院理学研究科教授)
2	コンバージェントプロセスと材料	山本 嘉則 (東北大学大学院理学研究科教授)

3名の評価協力者による評価結果：

研究の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を挙げている。 のべ5人
研究の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を挙げている。 のべ1人
研究の進展は必ずしも順調ではない。 のべ0人

4 . 次世代プロセス技術

(1) 評価対象研究推進委員会 : 「次世代プロセス技術」研究推進委員会

(委員長) 岸 輝雄 独立行政法人物質・材料研究機構理事長
大坂 敏明 早稲田大学各務記念材料技術研究所教授
幸田清一郎 東京大学大学院工学系研究科教授
小宮山 宏 東京大学大学院工学系研究科教授
松山 久義 九州大学大学院工学研究院教授

3 名の評価協力者による評価結果 :

研究推進計画の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を得ている。 0 人
研究推進計画の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を得ている。 3 人
研究推進計画の進展は必ずしも順調ではない。 0 人

(2) 評価対象研究プロジェクト

番号	研究プロジェクト名	プロジェクトリーダー
1	多機能コンポジット作製を目的としたプロセスの構築	野末 章 (上智大学理工学部教授)
2	構造用エコマテリアル創製のためのメソスコピック材料プロセス技術	小豆島 明 (横浜国立大学大学院工学研究院教授)

3 名の評価協力者による評価結果 :

研究の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を挙げている。 のべ 0 人
研究の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を挙げている。 のべ 4 人
研究の進展は必ずしも順調ではない。 のべ 2 人

5 . 知能情報・高度情報処理

(1) 評価対象研究推進委員会 : 「知能情報・高度情報処理」研究推進委員会

(委員長) 米澤 明憲 東京大学大学院情報学環教授
島崎 眞昭 京都大学大学院工学研究科教授
所 真理雄 ソニー(株)上席常務 / Co-CTO
長尾 眞 京都大学長
二村 良彦 早稲田大学理工学部教授
松山 隆司 京都大学大学院情報学研究科教授
米沢富美子 慶應義塾大学理工学部教授

3名の評価協力者による評価結果 :

研究推進計画の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を得ている。 0人
研究推進計画の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を得ている。 3人
研究推進計画の進展は必ずしも順調ではない。 0人

(2) 評価対象研究プロジェクト

番号	研究プロジェクト名	プロジェクトリーダー
1	マルチメディア・コンテンツの高次処理の研究	西尾章治郎 (大阪大学大学院工学研究科教授)

3名の評価協力者による評価結果 :

研究の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を挙げている。 のべ1人
研究の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を挙げている。 のべ2人
研究の進展は必ずしも順調ではない。 のべ0人

6. マルチメディア高度情報通信システム

(1) 評価対象研究推進委員会：「マルチメディア高度情報通信システム」研究推進委員会

(委員長) 齊藤 忠夫 中央大学研究開発機構教授
小野 欽司 国立情報学研究所研究総主幹
辻井 重男 中央大学理工学部教授
戸高 敏之 同志社大学工学部教授
村上 仁己 KDDI(株)執行役員 / 技術開発本部副本部長

3名の評価協力者による評価結果：

研究推進計画の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を得ている。 0人
研究推進計画の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を得ている。 3人
研究推進計画の進展は必ずしも順調ではない。 0人

(2) 評価対象研究プロジェクト

番号	研究プロジェクト名	プロジェクトリーダー
1	未来映像音響創作と双方向臨場感通信を目的とした高品位 Audio-Visual System の研究	宮原 誠 (北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科教授)

3名の評価協力者による評価結果：

研究の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を挙げている。 のべ0人
研究の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を挙げている。 のべ3人
研究の進展は必ずしも順調ではない。 のべ0人

7. シンセシスの科学

(1) 評価対象研究推進委員会：「シンセシスの科学」研究推進委員会

(委員長) 中島 尚正 放送大学東京多摩学習センター所長 / 教授
赤木 新介 大阪産業大学工学部教授
稲崎 一郎 慶應義塾大学理工学部長
上田 完次 神戸大学工学部教授
木村 文彦 東京大学大学院工学系研究科教授
富山 哲男 東京大学人工物工学研究センター教授
中澤 弘 早稲田大学中沢塾代表
福田 収一 東京都立科学技術大学工学部長

3名の評価協力者による評価結果：(3名のうち1名は評価を辞退)

研究推進計画の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を得ている。 0人
研究推進計画の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を得ている。 1人
研究推進計画の進展は必ずしも順調ではない。 1人

(2) 評価対象研究プロジェクト

番号	研究プロジェクト名	プロジェクトリーダー
1	人工知能による協調的シンセシスの方法論	溝口理一郎 (大阪大学産業科学研究所教授)

3名の評価協力者による評価結果：(3名のうち1名は2つの評価を選択)

研究の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を挙げている。 のべ 0人
研究の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を挙げている。 のべ 1.5人
研究の進展は必ずしも順調ではない。 のべ 1.5人

8. 革新的未来型エネルギー生成・変換の方式、材料、システム化

(1) 評価対象研究推進委員会：

「革新的未来型エネルギー生成・変換の方式、材料、システム化」研究推進委員会

- (委員長) 棚澤 一郎 日本大学工学部教授
岡 芳明 東京大学大学院工学系研究科教授
木村 逸郎 (株)原子力安全システム研究所技術システム研究所長
齋藤 忠 東京農工大学工学部教授
中塚 勝人 東北大学大学院工学研究科長
柳父 悟 東京電機大学工学部教授

3名の評価協力者による評価結果：

- 研究推進計画の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を得ている。 0人
研究推進計画の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を得ている。 2人
研究推進計画の進展は必ずしも順調ではない。 1人

(2) 評価対象研究プロジェクト

番号	研究プロジェクト名	プロジェクトリーダー
1	未来型地殻エネルギー抽出の研究	橋田 俊之 (東北大学大学院工学研究科附属破壊制御システム研究施設教授)
2	カーボン系新素材を用いた太陽電池の研究	山口 真史 (豊田工業大学大学院工学研究科教授)
3	超臨界状態における反応を利用した燃料の高品位化と高効率エネルギー変換に関する研究	富安 博 (東京工業大学名誉教授)

3名の評価協力者による評価結果：

- 研究の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を挙げている。 のべ1人
研究の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を挙げている。 のべ4人
研究の進展は必ずしも順調ではない。 のべ4人

9. エネルギー利用の効率化と環境影響低減化

(1) 評価対象研究推進委員会：

「エネルギー利用の効率化と環境影響低減化」研究推進委員会

- (委員長) 西川 禎一 大阪工業大学長
 川上 潤三 (株)日立製作所自動車機器グループ最高技術責任者
 近藤 駿介 東京大学大学院工学系研究科教授
 新宮 秀夫 特定非営利活動法人京都エネルギー環境研究協会代表
 谷口 武俊 (財)電力中央研究所経済社会研究所上席研究員
 富田 彰 東北大学多元物質科学研究所教授
 渡部 康一 慶応義塾大学理工学部教授

3名の評価協力者による評価結果：

- 研究推進計画の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を得ている。 0人
 研究推進計画の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を得ている。 2人
 研究推進計画の進展は必ずしも順調ではない。 1人

(2) 評価対象研究プロジェクト

番号	研究プロジェクト名	プロジェクトリーダー
1	水素エネルギー社会を目指す水素製造・利用技術	塩路 昌宏 (京都大学大学院エネルギー科学研究科教授)
2	環境負荷低減を目的とした新しい自律分散型都市エネルギーシステム	辻 毅一郎 (大阪大学大学院工学研究科教授)
3	環境負荷低減のための熱エネルギーの貯蔵に関する基礎研究	斎藤 彬夫 (東京工業大学大学院理工学研究科教授)
4	超伝導技術の適用による電力系統の高性能化に関する基礎研究	仁田 旦三 (東京大学大学院工学系研究科教授)

3名の評価協力者による評価結果：

- 研究の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を挙げている。 のべ0人
 研究の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を挙げている。 のべ8人
 研究の進展は必ずしも順調ではない。 のべ4人

10. 計算科学

(1) 評価対象研究推進委員会：「計算科学」研究推進委員会

- (委員長) 矢川 元基 東京大学大学院工学系研究科教授
 稲垣 康善 名古屋大学大学院工学研究科教授
 小柳 義夫 東京大学大学院情報理工学系研究科教授
 小林 昭一 福井工業大学工学部教授
 里深 信行 京都工芸繊維大学副学長
 白鳥 正樹 横浜国立大学大学院工学研究院教授
 杉本大一郎 放送大学千葉学習センター所長 / 教授
 寺倉 清之 独立行政法人産業技術総合研究所先端情報計算センター長
 森 正武 東京電機大学理工学部教授

3名の評価協力者による評価結果：(3名のうち1名は2つの評価を選択)

- 研究推進計画の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を得ている。 0.5人
 研究推進計画の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を得ている。 1.5人
 研究推進計画の進展は必ずしも順調ではない。 1人

(2) 評価対象研究プロジェクト

番号	研究プロジェクト名	プロジェクトリーダー
1	地球規模流動現象解明のための計算科学	金田 行雄 (名古屋大学大学院工学研究科教授)
2	次世代超並列計算機開発	岩崎 洋一 (筑波大学副学長)
3	次世代エレクトロニクスのための物質科学シミュレーション	今田 正俊 (東京大学物性研究所教授)
4	設計用大規模計算力学システムの開発	吉村 忍 (東京大学大学院新領域創成科学研究科教授)

3名の評価協力者による評価結果：

- 研究の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を挙げている。 のべ6人
 研究の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を挙げている。 のべ6人
 研究の進展は必ずしも順調ではない。 のべ0人

11. 光科学

(1) 評価対象研究推進委員会：「光科学」研究推進委員会

(委員長) 足立 吟也 日本分析化学専門学校名誉校長
廣瀬 千秋 東京工業大学名誉教授
宮田 清蔵 東京農工大学長
吉原経太郎 北陸先端科学技術大学院大学副学長

3名の評価協力者による評価結果：

研究推進計画の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を得ている。 1人
研究推進計画の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を得ている。 2人
研究推進計画の進展は必ずしも順調ではない。 0人

(2) 評価対象研究プロジェクト

番号	研究プロジェクト名	プロジェクトリーダー
1	超高速光・光制御材料の探査的研究	小林 孝嘉 (東京大学大学院理学系研究科教授)
2	フォトニクス用有機材料の創製とデバイスへの応用	城田 靖彦 (大阪大学大学院工学研究科教授)

3名の評価協力者による評価結果：

研究の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を挙げている。 のべ2人
研究の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を挙げている。 のべ4人
研究の進展は必ずしも順調ではない。 のべ0人

【生命科学領域】

1. 高次脳機能

(1) 評価対象研究推進委員会：「高次脳機能」研究推進委員会

- (委員長) 中西 重忠 京都大学大学院医学研究科長
 柴崎 浩 京都大学大学院医学研究科教授
 田中 啓治 理化学研究所脳科学総合研究センターグループディレクター
 丹治 順 東北大学大学院医学系研究科教授
 那波 宏之 新潟大学脳研究所教授
 宮下 保司 東京大学大学院医学系研究科教授

3名の評価協力者による評価結果：

- 研究推進計画の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を得ている。 0人
 研究推進計画の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を得ている。 3人
 研究推進計画の進展は必ずしも順調ではない。 0人

(2) 評価対象研究プロジェクト

番号	研究プロジェクト名	プロジェクトリーダー
1	イメージングによる高次脳機能およびその病態の総合的研究	柴崎 浩 (京都大学大学院医学研究科教授)
2	PET/MEGなどによる記憶およびその障害機序の解析	山鳥 重 (東北大学大学院医学系研究科教授)
3	PETおよび機能的MRIを用いたヒト高次脳機能の可塑性の解明	米倉 義晴 (福井医科大学高エネルギー医学研究センター教授)
4	PETおよびfMRIによる言語機構の解析	杉下 守弘 (東京大学大学院医学系研究科教授)
5	光CTおよび脳磁図を用いた高次脳機能の研究	田村 守 (北海道大学電子科学研究所教授)
6	脳特異的物質代謝のPETを用いた分子動態イメージング	渡辺 恭良 (大阪市立大学大学院医学研究科教授)

3名の評価協力者による評価結果：

- 研究の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を挙げている。 のべ1人
 研究の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を挙げている。 のべ11人
 研究の進展は必ずしも順調ではない。 のべ6人

2. 細胞シグナリング

(1) 評価対象研究推進委員会：「細胞シグナリング」研究推進委員会

(委員長) 宇井 理生 (財)東京都医学研究機構東京都臨床医学総合研究所理事
 遠藤 實 埼玉医科大学副学長
 成宮 周 京都大学大学院医学研究科教授
 西塚 泰美 神戸大学名誉教授

3名の評価協力者による評価結果：

研究推進計画の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を得ている。 0人
 研究推進計画の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を得ている。 2人
 研究推進計画の進展は必ずしも順調ではない。 1人

(2) 評価対象研究プロジェクト

番号	研究プロジェクト名	プロジェクトリーダー
1	視覚と受容体の順応・適応機構	河村 悟 (大阪大学大学院理学研究科教授)
2	シグナルによる細胞骨格の動態の調節機構	貝淵 弘三 (名古屋大学大学院医学研究科教授)
3	細胞接着による増殖シグナリングとその応用	目加田英輔 (大阪大学微生物病研究所教授)
4	脂質キナーゼ、PI 3-キナーゼの情報伝達における役割とその下流の伝達機構の解明 - インスリン情報伝達機構を中心に	春日 雅人 (神戸大学医学部教授)

3名の評価協力者による評価結果：

研究の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を挙げている。 のべ3人
 研究の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を挙げている。 のべ6人
 研究の進展は必ずしも順調ではない。 のべ3人

3. 生命体の形成機構（生殖、発生など）

1. 評価対象研究推進委員会：「生命体の形成機構（生殖、発生など）」研究推進委員会

（委員長）星 元紀 慶應義塾大学工学部教授
 浅島 誠 東京大学大学院総合文化研究科教授
 佐藤 矩行 京都大学大学院理学研究科教授
 竹市 雅俊 理化学研究所発生・再生科学総合研究センター長
 竹内 郁夫 (財)ノバルティス科学振興財団理事長
 長濱 嘉孝 岡崎国立共同研究機構基礎生物学研究所教授

3名の評価協力者による評価結果：

研究推進計画の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を得ている。 0人
 研究推進計画の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を得ている。 3人
 研究推進計画の進展は必ずしも順調ではない。 0人

2. 評価対象研究プロジェクト

番号	研究プロジェクト名	プロジェクトリーダー
1	線虫における行動様式の発生機構及び個体と細胞の大きさの決定機構	大島 靖美 (九州大学大学院理学研究院教授)

3名の評価協力者による評価結果：

研究の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を挙げている。 のべ0人
 研究の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を挙げている。 のべ3人
 研究の進展は必ずしも順調ではない。 のべ0人

4. 生体分子の構造と機能調節(構造生物学と機能分子)

(1) 評価対象研究推進委員会：

「生体分子の構造と機能調節(構造生物学と機能分子)」研究推進委員会

(委員長) 村上 和雄 (財)国際科学振興財団理事
 井上 圭三 帝京大学薬学部教授
 小川 智也 理化学研究所副理事長
 川崎 敏祐 京都大学大学院薬学研究科教授
 京極 好正 独立行政法人産業技術総合研究所生物情報解析研究センター長
 左右田健次 関西大学工学部教授

3名の評価協力者による評価結果：

研究推進計画の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を得ている。 0人
 研究推進計画の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を得ている。 2人
 研究推進計画の進展は必ずしも順調ではない。 1人

(2) 評価対象研究プロジェクト

番号	研究プロジェクト名	プロジェクトリーダー
1	生体分子間相互作用に関するX線結晶学的研究	三木 邦夫 (京都大学大学院理学研究科教授)
2	糖鎖の構造生物学と機能	楠本 正一 (大阪大学大学院理学研究科教授)
3	RNAの構造生物学	河合 剛太 (千葉工業大学工学部助教授)

3名の評価協力者による評価結果：

研究の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を挙げている。 のべ0人
 研究の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を挙げている。 のべ5人
 研究の進展は必ずしも順調ではない。 のべ4人

5 . 植物の環境応答機構とバイオテクノロジー

(1) 評価対象研究推進委員会 :

「植物の環境応答機構とバイオテクノロジー」研究推進委員会

(委員長) 駒嶺 穆	(財)進化生物学研究所理事	
岩淵 雅樹	岡山県生物科学総合研究所長	
岡田 吉美	東京大学名誉教授	
柴岡 弘郎	大阪大学名誉教授	
杉山 達夫	理化学研究所植物科学研究センター長	
原田 宏	山形県農業研究研修センター総長	
日向 康吉	(財)岩手生物工学研究センター所長	
古澤 巖	京都大学名誉教授	

3名の評価協力者による評価結果 :

研究推進計画の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を得ている。	0人
研究推進計画の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を得ている。	3人
研究推進計画の進展は必ずしも順調ではない。	0人

(2) 評価対象研究プロジェクト

番号	研究プロジェクト名	プロジェクトリーダー
1	環境に対する植物の分化応答機構	町田 泰則 (名古屋大学大学院理学研究科教授)

3名の評価協力者による評価結果 :

研究の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を挙げている。	のべ0人
研究の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を挙げている。	のべ3人
研究の進展は必ずしも順調ではない。	のべ0人

6 . 感染と生体防御

(1) 評価対象研究推進委員会 : 「感染と生体防御」研究推進委員会

(委員長) 高月 清 (財)田附興風会医学研究所北野病院長
 菅村 和夫 東北大学大学院医学系研究科教授
 竹田 美文 実践女子大学生生活科学部教授
 寺田 雅昭 国立がんセンター名誉総長
 永井 美之 富山県衛生研究所長

3名の評価協力者による評価結果 :

研究推進計画の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を得ている。 0人
 研究推進計画の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を得ている。 3人
 研究推進計画の進展は必ずしも順調ではない。 0人

(2) 評価対象研究プロジェクト

番号	研究プロジェクト名	プロジェクトリーダー
1	微生物感染における細胞性免疫の機能解明	小安 重夫 (慶應義塾大学医学部教授)
2	病原細菌の感染動態とその制御法	笹川 千尋 (東京大学医科学研究所教授)
3	ヘルペスウイルス感染の制御に関する分子的基盤の解明	西山 幸廣 (名古屋大学大学院医学研究科附属病態制御研究施設教授)
4	粘膜細菌感染症の集学的制御法	本田 武司 (大阪大学微生物病研究所教授)
5	ヒト免疫不全ウイルス (HIV-1) 感染症の病理病態解析とその治療法の開発	満屋 裕明 (熊本大学医学部教授)
6	細菌のエスケープ機構・病原因子に対する宿主応答を中心とした細菌感染病態の基礎的解析と生体防御への応用	光山 正雄 (京都大学大学院医学研究科教授)
7	レトロウイルス・肝炎ウイルス感染症における生体防御の分子機構	淀井 淳司 (京都大学ウイルス研究所教授)

3名の評価協力者による評価結果 :

研究の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を挙げている。 のべ4人
 研究の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を挙げている。 のべ17人
 研究の進展は必ずしも順調ではない。 のべ0人

7. 成人病 - 遺伝素因と環境因子の解明

(1) 評価対象研究推進委員会：「成人病 - 遺伝素因と環境因子の解明」研究推進委員会

(委員長) 黒川 清 東海大学総合医学研究所長
 尾形 悦郎 (財)癌研究会附属病院名誉院長
 岡本 宏 東北大学大学院医学系研究科教授
 北 徹 京都大学大学院医学研究科教授
 松尾 壽之 宮崎医科大学長

3名の評価協力者による評価結果：

研究推進計画の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を得ている。 0人
 研究推進計画の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を得ている。 3人
 研究推進計画の進展は必ずしも順調ではない。 0人

(2) 評価対象研究プロジェクト

番号	研究プロジェクト名	プロジェクトリーダー
1	脂肪細胞の分子生物学 - 脂肪蓄積と血管病発症の分子機構の解明	松澤 佑次 (大阪大学大学院医学系研究科教授)
2	成人病血管病変発症における老廃物蓄積とスカベンジャー経路の細胞生物学的解明	児玉 龍彦 (東京大学先端科学技術研究センター教授)
3	リポタンパクレセプターとその異常に関する細胞および個体生物学的研究	山本 徳男 (東北大学遺伝子実験施設教授)
4	血圧調節系遺伝子ネットワークの機能発現とその制御	深水 昭吉 (筑波大学先端学際領域研究センター教授)
5	糖尿病性血管症の発症と防止の分子機構	山本 博 (金沢大学医学部教授)

3名の評価協力者による評価結果：

研究の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を挙げている。 のべ3人
 研究の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を挙げている。 のべ10人
 研究の進展は必ずしも順調ではない。 のべ2人

8 . 食資源動物の科学

(1) 評価対象研究推進委員会 : 「食資源動物の科学」研究推進委員会

(委員長) 入谷 明 近畿大学理事 / 生物理工学部長
 荒井 綜一 東京農業大学応用生物科学部教授
 加藤征史郎 福山大学生命工学部教授
 佐々木隆造 滋賀県立大学人間文化学部教授
 隆島 史夫 東京水産大学長
 伏谷 伸宏 東京大学大学院農学生命科学研究科教授

3名の評価協力者による評価結果 :

研究推進計画の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を得ている。 0人
 研究推進計画の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を得ている。 3人
 研究推進計画の進展は必ずしも順調ではない。 0人

(2) 評価対象研究プロジェクト

番号	研究プロジェクト名	プロジェクトリーダー
1	ウナギのライフサイクルの解明と制御	會田 勝美 (東京大学大学院農学生命科学研究科教授)
2	水産食資源動物の再生産機構における遺伝子レベルでの制御	青木 宙 (東京水産大学大学院水産学研究科教授)
3	食資源動物の利用形質の遺伝子工学的制御	駒野 徹 (近畿大学生物理工学部教授)
4	食資源動物生産、特に個体サイズの内分泌学的並びに遺伝子工学的制御	西原 真杉 (東京大学大学院農学生命科学研究科教授)
5	食資源動物の発生工学の新展開による効率増産	宮本 元 (京都大学大学院農学研究科教授)
6	高度受諾性食資源特性のデザイン	伏木 亨 (京都大学大学院農学研究科教授)

3名の評価協力者による評価結果 :

研究の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を挙げている。 のべ5人
 研究の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を挙げている。 のべ11人
 研究の進展は必ずしも順調ではない。 のべ2人

【複合領域】

1. 生命情報

(1) 評価対象研究推進委員会：「生命情報」研究推進委員会

(委員長) 安西祐一郎 慶應義塾長
 生田 幸士 名古屋大学大学院工学研究科教授
 小林 重信 東京工業大学大学院総合理工学研究科教授
 下原 勝憲 (株)国際電気通信基礎技術研究所人間情報科学研究所長
 西川 禎一 大阪工業大学長
 横山 茂之 東京大学大学院理学系研究科教授

3名の評価協力者による評価結果：

研究推進計画の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を得ている。 0人
 研究推進計画の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を得ている。 3人
 研究推進計画の進展は必ずしも順調ではない。 0人

(2) 評価対象研究プロジェクト

番号	研究プロジェクト名	プロジェクトリーダー
1	生命情報プロセッサの入出力機構の設計と構築 - 電気生理学的アプローチと生化学的アプローチ -	山川 烈 (九州工業大学大学院生命体工学研究科教授)
2	生命情報の数理と工学的設計論への展開	片井 修 (京都大学大学院情報学研究科教授)
3	システム生命を有する知的システムの構築	吉田 和夫 (慶應義塾大学理工学部教授)

3名の評価協力者による評価結果：(3名のうち1名は一部評価を辞退)

研究の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を挙げている。 のべ0人
 研究の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を挙げている。 のべ7人
 研究の進展は必ずしも順調ではない。 のべ0人

2. 再生医工学

(1) 評価対象研究推進委員会：「再生医工学」研究推進委員会

(委員長) 筏 義人	鈴鹿医療科学大学医用工学部教授
上田 実	名古屋大学大学院医学系研究科教授
清水 慶彦	京都大学再生医科学研究所教授
野本亀久雄	(社)日本臓器移植ネットワーク副理事長
幕内 雅敏	東京大学大学院医学系研究科教授
松田 武久	九州大学大学院医学研究院教授

3名の評価協力者による評価結果：

- 研究推進計画の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を得ている。 1人
- 研究推進計画の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を得ている。 1人
- 研究推進計画の進展は必ずしも順調ではない。 1人

(2) 評価対象研究プロジェクト

番号	研究プロジェクト名	プロジェクトリーダー
1	機能再生の医工学	堀田 知光 (東海大学医学部教授)
2	生体組織工学	馬越 佑吉 (大阪大学大学院工学研究科教授)

3名の評価協力者による評価結果：

- 研究の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を挙げている。 のべ0人
- 研究の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を挙げている。 のべ4人
- 研究の進展は必ずしも順調ではない。 のべ2人

3. 生命科学と化学的手法の融合による新有用物質生産

(1) 評価対象研究推進委員会：

「生命科学と化学的手法の融合による新有用物質生産」研究推進委員会

(委員長) 別府 輝彦 日本大学生物資源科学部教授
遠藤彌重太 愛媛大学工学部教授
太田 隆久 東京大学名誉教授
小倉 協三 東北大学名誉教授
瀬戸 治男 東京農業大学応用生物科学部教授
西村 暉 万有製薬(株)つくば研究所名誉所長
山田 秀明 京都大学名誉教授 / 富山県立大学名誉教授
渡辺 公綱 東京大学大学院新領域創成科学研究科教授

3名の評価協力者による評価結果：

研究推進計画の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を得ている。 2人
研究推進計画の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を得ている。 1人
研究推進計画の進展は必ずしも順調ではない。 0人

(2) 評価対象研究プロジェクト

番号	研究プロジェクト名	プロジェクトリーダー
1	新機能人工核酸の化学的創出	関根 光雄 (東京工業大学大学院生命理工学研究科教授)
2	有用化合物の精密酵素合成	清水 昌 (京都大学大学院農学研究科教授)

3名の評価協力者による評価結果：

研究の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を挙げている。 のべ5人
研究の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を挙げている。 のべ1人
研究の進展は必ずしも順調ではない。 のべ0人

4 . 生体の計測と制御

(1) 評価対象研究推進委員会 : 「生体の計測と制御」研究推進委員会

(委員長) 古川 俊之 国立大阪病院名誉院長
河合 忠 国際臨床病理センター所長
河田 聡 大阪大学大学院工学研究科フロンティア研究機構長
鈴木 良次 金沢工業大学人間情報システム研究所長
千原 國宏 奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科教授

3名の評価協力者による評価結果 :

研究推進計画の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を得ている。 1人
研究推進計画の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を得ている。 2人
研究推進計画の進展は必ずしも順調ではない。 0人

(2) 評価対象研究プロジェクト

番号	研究プロジェクト名	プロジェクトリーダー
1	生体応用に即したセンシングと情報処理技術の体系的な研究開発	満洲 邦彦 (東京大学国際・産学共同研究センター教授)
2	超音波診断と治療の革新的基礎技術の開発	堀 正二 (大阪大学大学院医学系研究科教授)
3	逆問題解の診断および生物学研究への応用	賀戸 久 (金沢工業大学先端電子技術応用研究所教授)
4	フォトニック生体情報計測制御	河田 聡 (大阪大学大学院工学研究科教授)

3名の評価協力者による評価結果 :

研究の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を挙げている。 のべ3人
研究の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を挙げている。 のべ7人
研究の進展は必ずしも順調ではない。 のべ2人

5 . 環境負荷の影響評価と軽減

(1) 評価対象研究推進委員会 : 「環境負荷の影響評価と軽減」研究推進委員会

(委員長) 鈴木 基之 国際連合大学副学長
 植田 和弘 京都大学大学院経済学研究科教授
 尾島 俊雄 早稲田大学理工学部教授
 兒玉 徹 東京大学名誉教授
 小早川光郎 東京大学大学院法学政治学研究科教授
 志賀 健 大阪大学名誉教授

3 名の評価協力者による評価結果 :

研究推進計画の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を得ている。 1 人

研究推進計画の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を得ている。 2 人

研究推進計画の進展は必ずしも順調ではない。 0 人

(2) 評価対象研究プロジェクト

番号	研究プロジェクト名	プロジェクトリーダー
1	低環境負荷・資源循環型居住システムの社会工学的実験研究	尾島 俊雄 (早稲田大学理工学部教授)
2	都市廃棄物による環境負荷を低減するための新規微生物処理技術の開発	五十嵐泰夫 (東京大学大学院農学生命科学研究科教授)
3	水・物質バランスの時空間変化に着目した人間活動の環境影響評価とその軽減方策に関するシステム的研究	虫明 功臣 (東京大学生産技術研究所教授)
4	高温高压処理による廃棄物の資源化技術の開発	藤江 幸一 (豊橋技術科学大学工学部教授)
5	有害な環境汚染化学物質の人体影響評価技術の開発	野村 大成 (大阪大学大学院医学系研究科教授)
6	沿岸油濁の生態系に与える負荷の評価とその軽減	岡田 光正 (広島大学大学院工学研究科教授)

3 名の評価協力者による評価結果 :

研究の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を挙げている。 のべ 7 人

研究の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を挙げている。 のべ 7 人

研究の進展は必ずしも順調ではない。 のべ 4 人

6. アジア地域の環境保全

(1) 評価対象研究推進委員会：「アジア地域の環境保全」研究推進委員会

- (委員長) 川那部浩哉 琵琶湖博物館長
- 嘉田由紀子 京都精華大学人文学部教授
- 黒川 洸 (財)計量計画研究所理事長
- 黒田 昌裕 慶應義塾常任理事
- 佐々木恵彦 日本大学生物資源科学部長
- 但野 利秋 東京農業大学応用生物科学部教授
- 架谷 昌信 名古屋大学理工科学総合研究センター長
- 森田 恒幸 独立行政法人国立環境研究所社会環境システム研究領域長

3名の評価協力者による評価結果：

- 研究推進計画の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を得ている。 0人
- 研究推進計画の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を得ている。 2人
- 研究推進計画の進展は必ずしも順調ではない。 1人

(2) 評価対象研究プロジェクト

番号	研究プロジェクト名	プロジェクトリーダー
1	アジア地域における経済および環境の相互依存と環境保全に関する学際的研究	吉岡 完治 (慶應義塾大学産業研究所教授)
2	地球環境情報収集の方法の確立 - 総合調査マニュアルの作成に向けて -	和田英太郎 (京大大学生態学研究センター教授)
3	フィリピンにおける大都市地域および地方部の整備、開発、保全に関する研究	大町 達夫 (東京工業大学大学院総合理工学研究科教授)
4	中国南部における石炭エネルギーを基軸とした環境共生型都市システム構築に関する技術開発研究	森 滋勝 (名古屋大学大学院工学研究科教授)

3名の評価協力者による評価結果：

- 研究の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を挙げている。 のべ1人
- 研究の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を挙げている。 のべ8人
- 研究の進展は必ずしも順調ではない。 のべ3人

【総合研究連絡会議関係】

1. 官能基化 C₆₀ の創製と新機能開発

(1) 評価対象研究プロジェクト

研究プロジェクト名	官能基化 C ₆₀ の創製と新機能開発
プロジェクトリーダー	西郷 和彦 (東京大学大学院新領域創成科学研究科教授)

3名の評価協力者による評価結果：

研究の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を挙げている。	0人
研究の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を挙げている。	3人
研究の進展は必ずしも順調ではない。	0人

(2) 評価対象産学協力研究委員会

産学協力研究委員会名	創造機能化学第 116 委員会
産学協力研究委員長	吉田 善一 (京都大学名誉教授)

2. ナノ・巨視・材料情報融合による先端材料の超強靱・超高強度化・信頼性高精度評価技術の開発

(1) 評価対象研究プロジェクト

研究プロジェクト名	ナノ・巨視・材料情報融合による先端材料の超強靱・超高強度化・信頼性高精度評価技術の開発
プロジェクトリーダー	増井 浩昭 (帝京大学理工学部教授)

3名の評価協力者による評価結果：

研究の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を挙げている。	0人
研究の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を挙げている。	3人
研究の進展は必ずしも順調ではない。	0人

(2) 評価対象産学協力研究委員会

産学協力研究委員会名	先端材料強度第 129 委員会
産学協力研究委員長	横堀 武夫 (帝京大学理工学部教授)

3. 高機能空間光変調を用いた極限情報処理

(1) 評価対象研究プロジェクト

研究プロジェクト名	高機能空間光変調を用いた極限情報処理
プロジェクトリーダー	後藤 顕也(東海大学開発工学部教授)

3名の評価協力者による評価結果：

研究の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を挙げている。	0人
研究の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を挙げている。	2人
研究の進展は必ずしも順調ではない。	1人

(2) 評価対象産学協力研究委員会

産学協力研究委員会名	光エレクトロニクス第130委員会
産学協力研究委員長	稲場 文男(東北大学名誉教授)

4. 原子界面設計による超高密度磁気記録デバイスの研究開発

(1) 評価対象研究プロジェクト

研究プロジェクト名	原子界面設計による超高密度磁気記録デバイスの研究開発
プロジェクトリーダー	逢坂 哲彌(早稲田大学理工学部教授)

3名の評価協力者による評価結果：

研究の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を挙げている。	0人
研究の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を挙げている。	3人
研究の進展は必ずしも順調ではない。	0人

(2) 評価対象産学協力研究委員会

産学協力研究委員会名	磁気記録第144委員会
産学協力研究委員長	岩崎 俊一(東北工業大学学長)

5. 極限サイズ硬磁性物質の創成と新規磁気素子への展開

(1) 評価対象研究プロジェクト

研究プロジェクト名	極限サイズ硬磁性物質の創成と新規磁気素子への展開
プロジェクトリーダー	島田 寛 (東北大学科学計測研究所教授)

3名の評価協力者による評価結果：

研究の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を挙げている。	0人
研究の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を挙げている。	3人
研究の進展は必ずしも順調ではない。	0人

(2) 評価対象産学協力研究委員会

産学協力研究委員会名	アモルファス・ナノ材料第147委員会
産学協力研究委員長	増本 健 (財)電気磁気材料研究所長)

6. 新圧電単結晶・薄膜材料の探索と次世代高度情報システム用高機能弾性波デバイスの研究

(1) 評価対象研究プロジェクト

研究プロジェクト名	新圧電単結晶・薄膜材料の探索と次世代高度情報システム用高機能弾性波デバイスの研究
プロジェクトリーダー	山田 顕 (東北大学大学院工学研究科助教授)

3名の評価協力者による評価結果：

研究の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を挙げている。	1人
研究の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を挙げている。	2人
研究の進展は必ずしも順調ではない。	0人

(2) 評価対象産学協力研究委員会

産学協力研究委員会名	弾性波素子技術第150委員会
産学協力研究委員長	山之内和彦 (東北工業大学工学部教授)

7. 高次制御ナノスコピック電子材料の熱プラズマ 超高速クラスター成膜法創製

(1) 評価対象研究プロジェクト

研究プロジェクト名	高次制御ナノスコピック電子材料の熱プラズマ超高速クラスター成膜法創製
プロジェクトリーダー	吉田 豊信(東京大学大学院工学系研究科教授)

3名の評価協力者による評価結果：

研究の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を挙げている。	0人
研究の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を挙げている。	3人
研究の進展は必ずしも順調ではない。	0人

(2) 評価対象産学協力研究委員会

産学協力研究委員会名	プラズマ材料科学第153委員会
産学協力研究委員長	堀池 靖浩(東京大学大学院工学系研究科教授)

8. 複合型多収性作物の創成をめざした光合成等 生産機能の総合的分子改良

(1) 評価対象研究プロジェクト

研究プロジェクト名	複合型多収性作物の創成をめざした光合成等生産機能の総合的分子改良
プロジェクトリーダー	横田 明穂(奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科教授)

3名の評価協力者による評価結果：

研究の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を挙げている。	0人
研究の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を挙げている。	2人
研究の進展は必ずしも順調ではない。	1人

(2) 評価対象産学協力研究委員会

産学協力研究委員会名	地球環境・食糧・資源のための植物バイオ第160委員会
産学協力研究委員長	磯貝 章(奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科教授)

9. 次世代機能素子用基盤としての単結晶の育成と評価

(1) 評価対象研究プロジェクト

研究プロジェクト名	次世代機能素子用基盤としての単結晶の育成と評価
プロジェクトリーダー	福田 承生（東北大学金属材料研究所教授）

3名の評価協力者による評価結果：

研究の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を挙げている。	0人
研究の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を挙げている。	3人
研究の進展は必ずしも順調ではない。	0人

(2) 評価対象産学協力研究委員会

産学協力研究委員会名	結晶成長の科学と技術第161委員会
産学協力研究委員長	福田 承生（東北大学金属材料研究所教授）

10. 高度マルチメディア応用システム構築のための 先進的ネットワークアーキテクチャの研究

(1) 評価対象研究プロジェクト

研究プロジェクト名	高度マルチメディア応用システム構築のための先進的ネットワークアーキテクチャの研究
プロジェクトリーダー	宮原 秀夫（大阪大学大学院基礎工学研究科教授）

3名の評価協力者による評価結果：

研究の進展が著しく、目的を大幅に超える成果を挙げている。	0人
研究の進展は概ね順調であり、目的どおりの成果を挙げている。	3人
研究の進展は必ずしも順調ではない。	0人

(2) 評価対象産学協力研究委員会

産学協力研究委員会名	インターネット技術第163委員会
産学協力研究委員長	宮原 秀夫（大阪大学大学院基礎工学研究科教授）